

# 共同礼拝

2023年3月12日(日) 午前10時30分

午後3時00分

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩 編 100編1, 2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 6章8～10節 (旧1070)

マタイによる福音書 13章1～23節  
(新24)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 7 (1, 2)

説 教 「聞くには聞くが」 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 187 (1, 2)

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 3月の祈り

主イエスが共におられることによって、与えられている恵みと導きを見出し、日々を大切に歩むことができるように。

戦火と天災によって困難と悲しみを負っている人々に、主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

受難節を覚え、主イエスの十字架の救いの信仰理解を深め、礼拝を大切に、聖書に親しみ、祈りの時を持ち、イースターの恵みに備えることのできるように。

## 今日の祈り

東日本大震災から12年今尚、痛みを負っている人々を覚えて。危機の時に向けて、教会の役割を考え、備えることができるように。

幼稚園の卒業式と卒園生を覚え今の時代に神と人々とに愛され祝福されて、成長することができるように。若い人々の道が祝され守られるように。

早く、戦争の終結と平和が与えられるように。天災に苦しむ人々が力づけられるように。

体調を崩している兄弟姉妹が力づけられるように。

「聞くには聞くが」 高橋和人

マタイによる福音書 13:1～23

福音書には、難しい言葉は出てこない。主イエスは易しいたとえで語られた。理詰めではなく日常生活に起こることで話された。今日のたとえも種まく人の姿があり、その種の発芽という自然な日常のことが題材になっている。

18節からは主イエスがたとえを説明される。誰でも、神の言葉を聞いても悟ることがなければ、御言

葉は奪い取られるし、聞いて悟るものは豊かに実るといふ。子どもたちも喜んで聞くことができる。

主イエスはたとえを多用して語られた。弟子たちはなぜたとえで語るのかを疑問に思う。

たとえはより分かりやすく語るためにある。ところが主イエスのたとえは説明のためではない。この「たとえ」は「謎」という言葉からきている。主イエスのたとえには隠された部分がある。

主は弟子たちに、「天の国の秘密」を悟ることが人を分けるという。その秘密は「見ても見ず、聞いても聞かず、理解できない」というイザヤ書の実現に鍵がある。

神はイザヤに「心は鈍り…彼らは目で見ることなく、耳で聞くことなく、心で理解背せず、悔い改めることがない。」と告げる。それは神の言葉を受け入れようとしない人間を知らせる。人は神に目も耳も心も閉ざす。

主イエスは弟子たちに「あなたがたは見ているし、聞いているから幸いだ」と告げる。主イエスのことだ。主イエスが聞いてくださる。弟子は主に開かれた者だ。それがどれほどの祝福なのか。主イエスに触れて、悟ることになる。

主の説明は明解だ、悟らなければ奪われる。心を閉ざした人、分かったつもりになっても、自分で考え、時間をかけ根を下ろさなければ、つまずきになる。多くのことに興味を持つ誘惑がある。人に必要なのは一途な信仰だ。主の愛がかかっているからだ。

良い土地とは、心にキリストを見ることだ。ペトロは「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、…魂の救いを受けているからです。」という。今イエスを愛するという謎が、人を聞くものにする。